

法人様向け無線アクセスポイント 入居者へのケアの時間をIT化で増やす、 介護現場の業務効率化を 無線LANのリプレースで実現



介護老人保健施設「聖・オリーブの郷」様

社会福祉法人 創世福祉事業団様が、福島県伊達郡桑折町で運営する介護老人保健施設「聖・オリーブの郷」。2013年8月、同施設において、無線LANのリプレースが行われ、PCだけでなく、スマホやタブレットなど、介護現場で柔軟なIT活用が可能な基盤が実現されました。今回は、介護福祉施設における無線LAN利用シーンの広がりを紹介します。



写真：「聖・オリーブの郷」事務次長 鈴木義和 様

取材協力：有限会社 マインドビジネス

利用者へのケア時間を増やすため、 IT化を推進し業務を効率化

2004年設立の介護老人保健施設 桑折「聖・オリーブの郷」は、開所当初からPCやファイルサーバを導入してネットワークの整備を行い、IT化を進めてきました。事務次長の鈴木義和氏は、「IT化を進めることで事務業務を効率化し、入居者の方へのサービスに充てる時間を増やすように努めてきました」と話します。そうしたITによる業務効率化をさらに推進するために、今回導入されたのが、同施設のシステム構築を担っていた、マインドビジネス様より提案されたバッファローの無線LAN製品でした。

既存の無線LANで、 トラブルがたびたび発生

施設内を移動しての作業を考慮し、ノートPCの利用が中心となっている。しかし、PCの台数が増えたことに加え既存の無線LANでは機能的に不十分で、通信速度や、接続が途切れるなどの問題を抱えていました。

その影響で「業務で使う介護アプリケーションはASPサービスを利用しているため、無線接続が途切れて入力中のデータが消失してしまい、最初から作業をやり直すこともありました。これではIT化したにも関わらず、業務効率を下げってしまうことにもなりかねません」と、鈴木氏は話します。

ブリッジ機能と周波数帯の使い分けが 決め手となり無線LANを導入

これらの課題を踏まえマインドビジネス様に相談し提案されたのが、バッファローの法人様向け無線アクセスポイント「WAPM-APG600H」でした。

マインドビジネス 代表取締役の田村努氏は「今回、ネットワークのリプレースにあたって、バッファローの無線LAN製品を導入する決め手は2つありました。一つは通信エリアを拡張できる『ブリ

ジ機能』です。これにより、広い施設内を無線LANのみでカバーすることが出来ました。もう一つは、施設周辺との電波干渉を回避する仕組みとして2つの周波数帯域(5GHz帯/2.4GHz帯)を持ち、使い分けて利用できる点です。まさに私たちが求める要件に合致していました」と説明します。

これらの要件に加え、構築や導入に関する豊富なノウハウ、そして他社製品に比べ大幅にコストを抑えられることを評価し、バッファロー製品の導入が決定しました。「導入にあたって、製品選定からアクセスポイントの効果的な配置などの提案をもらい、無事、無線LANの構築を終えることができました」と田村氏は説明します。

ブリッジ機能の有効活用で、 最適な無線ネットワークを構築

今回、施設内2フロアで床面積約4,754平方メートルにおよぶ広い施設内を6台の「WAPM-APG600H」でカバーする無線LANネットワークが実現されています。

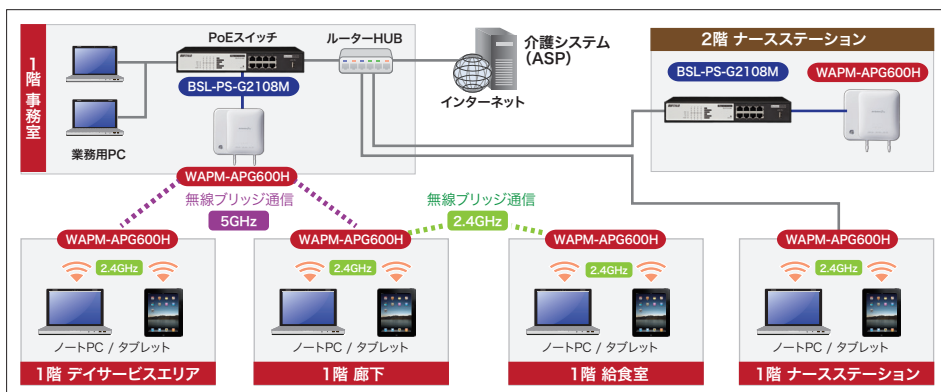
アクセスポイント間をつなぐブリッジ通信は電

波干渉に強い5GHz帯の電波を利用、一方、端末からのアクセスには障害物に強い2.4GHz帯を利用することで、電波干渉に強い無線LAN環境を構築しています。

無線通信が安定したことや移動中でも途切れないローミング機能が奏功し、これまでのように入力途中でデータが消えるといった問題もまったく生じていません。また通信速度も速く、快適なネットワーク環境が構築されました。

スマホやタブレットの業務利用も視野に

今後はスマホ、タブレットの本格的な業務活用も視野に入れている。現在は入居者の日々の状況について、カルテに主に手書き等で記録していますが、そうした作業において、持ち運びが容易なタブレットなどで入力業務が行えるようになれば、業務効率はさらに向上します。また、タブレットとビデオ通話アプリケーション等を利用して、他の施設とのビデオ会議や、入居者とご家族の方の面会なども検討しており、今後、ますます無線LANの活用シーンは広がりを見せていこうです。



導入製品



エアステーション プロ 11n/a/11n/g/b対応
インテリジェントモデル 無線LANアクセスポイント
WAPM-APG600H

